

令和3年度 第2回明石市総合教育会議（議事要旨）

日 時	2022年(令和4年)2月22日(火) 14:15～15:30
場 所	明石市役所議会棟2階 大会議室
出席者	泉房穂市長、北條英幸教育長、柏木輝恵教育委員、川本まり子教育委員、橘幸男教育委員、橋本彰則教育委員
協議・調整事項	(1) 明石市教育大綱の改定について (2) 新年度に向けた取組について ア インクルーシブ教育の推進について イ 不登校児童生徒への支援強化（もくせい教室等）及びこどもの居場所（トロッコ）について ウ 本のまち明石の取組（読書バリアフリー） エ 学校教育におけるICT化の推進について (3) その他
配付資料	・次第 ・資料1 「明石市教育大綱」の改定について ・資料2 インクルーシブ教育の推進について ・資料3 不登校児童生徒への支援強化（もくせい教室等）について ・資料4 こどもの居場所（トロッコ）について ・資料5 「本のまち 明石」の取組 ・資料6 学校教育におけるICT化の推進について
事務局	政策局SDGs推進室 (その他出席者) 教育委員会事務局、こども局こども育成室

1 開 会

(市長あいさつ)

- ・大事なことは、教育委員会と市長部局、そして地域や子どもたちを含めて、一丸となって子どもたちにとって何がいいのかを、しっかりと考えながら対応を一步一步進めていくことだと思っている。
- ・教育に関しては、子どもたちと子どもたちに寄り添う方々の現場を大事にして、現場のニーズをくみ取って応援していきたい。
- ・市長の意見箱で教育分野の意見が大変多く寄せられる。教育に関しては多くの皆様に思うところがあり、お子さんそれぞれに事情があるので、そう簡単にできるものはない。市長の意見箱については、できるだけ教育委員会など関係者と情報共有して協力しながら対応しているが、丁寧さや、色々な形の兼ね合いが本当に悩ましいことが多くある。
- ・今日のテーマにも関係するものが数多く含まれていて、大変重要でありながら、簡単に一律で対応して済むテーマではないので、改めて一緒に考えていきたい。

2 議 事

(1) 明石市教育大綱の改定について

- ・**資料1**に基づき、明石市教育大綱の改定について政策局次長から説明。

(市長)

- ・前日も協議して、それを踏まえて対応してきたと認識している。
- ・市長として特段新たなコメントや対応は指示していない。基本的には、従前の明石のまちづくりの延長線上でより丁寧に進めていきたいと思っている。

(教育委員)

- ・2ページの基本方針の中に、「子ども」と「子どもたち」という表現が混在しているのを、「子ども」で統一してもいいかと思う。

(市長)

- ・「子ども」か「子どもたち」か、漢字で「子供」2文字か、漢字の「子供達」なのか、事務局の方で整理する。
- ・今日は、大きな方向性に異論なければ、細部については個々にご意見いただきながら、策定するがよろしいか。

(一同了承)

(2) 新年度に向けた取組について

ア インクルーシブ教育の推進について

イ 不登校児童生徒への支援強化（もくせい教室等）及び

こどもの居場所（トロッコ）について

- ・**資料2**に基づき、インクルーシブ教育の推進について学校教育課長から説明。
- ・**資料3**に基づき、不登校児童生徒への支援強化（もくせい教室等）について及び**資料4**に基づき、こどもの居場所（トロッコ）について児童生徒支援課長から説明。

(市長)

- ・これらは、子ども一人ひとりの状況に可能な限り寄り添って、環境整備含め関係機関が連携して、どのような責任を果たしていくかというテーマであると受け止めている。
- ・これまでよりも丁寧な対応が求められる中で、できることを更に試行錯誤している段階だと思っている。予算を増やすなどの対応をしている認識であるが、市長の意見箱にも、切実な親御さんの声が寄せられていて、必ずしも十分にできているわけではない。
- ・不登校についても様々な課題があるので、より丁寧さが要ると受け止めている。
- ・インクルーシブ教育の観点で、医療的ケアなども大変重要視されていて、医師会など関係機関と連携しながら支援体制を作っていきたいので、改めて問題意識等お話しいただきたい。

(教育委員)

- ・教育というのは、言葉は悪いが一つの形にはめるという形で進めていくのが基本になる中で、多様性を認めるのも中々難しいところではある。
- ・特別支援の資格を持っている先生は、一人ひとりに本当に多様性があるということの認識を教育の延長線上で理解されているが、そうでない先生にも、接している普通学級の学校の生徒たちが全てではなくて、多様性があるという視点を持っていただきたい。
- ・特別支援学級の担任をしたから、多様性を見ることができ、今度は普通学級の子どもを見る目も変わったというような教育システムを是非とも作っていただきたい。
- ・幼稚園は就学前の教育であり、小学校からはいわゆる学習の教育の場である。幼稚園の就学前教育は、友達、子ども同士のふれあいや、一緒に何かをする場である。学校で様々な教育を受けている中でしか覚えられないことがある。
- ・人と人とがふれあうこと、他者を理解することが一番大切なことだと思う。もくせい教室や、こどもの居場所（トロッコ）は非常に大切な場で、自分以外の人と接することで自分が分かる場所だと思う。

(市長)

- ・もくせい教室は、これまでの2か所は学校の中であったが、新たな3か所目は学校の外に設置し、移動のバリアフリー化も図る方向である。
- ・トロッコもすぐに定員を上回り、定員の拡充を図る予定で調整している。大変ニーズが高い状況であるので、できる限り多様な選択肢として位置付けていきたい。

(教育委員)

- ・インクルーシブ教育について、教室の中には特別な支援が必要な子ども以外にも、困っている子はたくさんいる。支援が必要な子どもだけでなく、普通学級にいる子ども全てに担任の先生が声をかけ、仲間として皆が認識できるようにしていくことが本当に大事だと思う。
- ・子どもの居場所に関しては、学校でないことに非常に意義があって、学校に行けないから不登校になっている子が、また学校の中の一部に入っていくのは、ハードルが高いので、朝霧にできるところに期待している。
- ・トロッコは、最初できたときに見学に行かせていただいた。学校には行けないけど、勉強はしたいという不登校の子どもがいたので、トロッコやもくせい教室で勉強したことが単位となって、出席として認められていく取組を是非進めていただきたい。

(教育長)

- ・トロッコに通う子どもたちの出席の件について、児童生徒支援課が子ども単位で学習も含めてどのような取組をしているか、指導主事が現場に行き、施設の方とのヒアリングもして、ほぼ皆さん出席扱いできるという形で今は取り組んでいる。
- ・インクルーシブ教育の推進について、昨今、非常に特別支援学級の在籍者数が増えている。一昔前と違って、保護者の特別支援に関する理解が進んでいるということもあるかと思う。

- ・特別支援学校教諭免許について、ご指摘の通り免許のない教員が特別支援学級をもっていることが非常に多くある。市も研修をしているが、基礎的な特別支援に関する知識をつけるため、通信教育などで特別支援学校教諭免許が取得できるようにする促進策を事務局内でも検討していた。ただ、通信教育は費用もかかるので、どのように実施していくかしっかり詰めていきたい。そのことによって、通常学級に在籍する支援の必要な児童生徒に対する接し方も変わってくると考えている。
- ・朝霧の新たなもくせい教室について、年度内には会場が完成して、4月から受け入れる予定で進めている。学校内のもくせい教室とはまた違うので、トロッコも含めて新たな選択肢が増えるということで事務局としても期待している。

(教育委員)

- ・特別支援教育は、教員を目指す学校では元々人気がある。他の実習が多くて資格が取れなかった人も、実際の学校現場で教えてみると、もう一度勉強したい人もいると思う。その金銭的、時間的支援をすることは、その人自身の能力の向上にもなり、市全体としても財産にもなるので、うまく対応していただければいい。

(教育委員)

- ・インクルーシブ教育について、発達障害の程度もいろいろあり、できる部分とできない部分の差が大変激しいことも特徴である。障害者であるかに関係なく、全ての子どもを丁寧に見ることがインクルーシブ教育につながると思う。
- ・30人学級など一つ一つのクラスの単位を小さくして、一人の先生が見る人数を少なくすることで、一人ひとりをより丁寧に見ていく教育をすることができるかと思う。すぐに30人学級にするのは難しいと思うが、少しずつ担任を持たない、フリーで動ける先生を配置していくなどして、質の高い教育を実施できるのではないかと思う。
- ・通信教育を推進することで、特別支援の資格を持つ先生を増やすことも非常に重要だと思う。学校教育の先生のキャリアアップを支援していくことで、学びを後押ししていくことができればいい。
- ・こどもの居場所（トロッコ）についても、公設民営であることに非常に意味があり、多様な選択肢を提示していくことが重要だと思う。
- ・今後希望が多いようであれば、開設場所については、明石駅周辺に限らず違うエリアでも、モデル施設として今後の展開を期待したい。

(市長)

- ・多様な場所の整備とそこ人の質・量の充実化を強く意識している。場所に関しては、東播磨エリアで特に明石エリアでどうかという議論もある。場合によっては、明石市内においてもう一つの選択肢の特別支援学校の位置づけも検討がいずれ必要かもしれない。
- ・特別支援学級については、次年度予算でも落ち着いて学べるような環境整備などを予定している。人の問題は非常に重要で、心ない言動があったという新聞報道もあるので、研修も含め

て場所の確保と人の育成をしっかりとしたいと考えている。

(教育委員)

- ・特別支援学校の免許について、県立学校の場合は、免許を持ってない教員を特別支援学校に積極的に配置していた時代があり、そのうち免許を持つように指導がどんどん入っていった。
- ・明石市内でも、特別支援教育を担当する先生への研修に力を入れていると思うが、全ての教員に研修が広く行われれば、誰でも担当できる方向になっていくのでお考えいただきたい。

(市長)

- ・例えば、諸外国の場合は、早い段階でインクルーシブ教育、障害当事者といわゆる健常者が、過ごすことが早くになされている。そこで育って教師になった者は、自分のクラスに障害のある子どもが隣にいるのが当たり前で教師になる。
- ・中核市となり教職員の研修も担うので、できるだけ幅広く位置付けていけたらと思う。

ウ 本のまち明石の取組（読書バリアフリー）

- ・**資料5**に基づき、本のまち明石の取組について青少年教育課長から説明。

(市長)

- ・明石市は、「本のまち」というキーワードでまちづくりを進めてきた。明石駅前に市民図書館を面積4倍、本の数2倍でスタートし、時間の延長や更に様々なサービス拡大に努めている。
- ・移動図書館車も、県内初の2台体制で市内をくまなく巡っていて、今後は例えば高齢者の施設等にも運行して、様々なニーズに応えていきたいと考えている。
- ・とりわけ子どもたちにとって本は大変重要であり、現場の方にも対応をお願いしていきたい。

(教育委員)

- ・郷土資料や兵庫県内について書かれた本が、ほぼ全部貸出禁止になっているのが不思議に思われる。学校図書館にない本は市の図書館から借りなさいと教育されていると思うが、郷土学習の時に、郷土に関する本が図書館から貸し出しできない状況は何とかならないか。
- ・一般向けには図書カードで貸し出すので、本が汚されることや無くなることの心配があると思うが、別の貸出方法をとって、丁寧に扱ってもらえれば貸し出してもいいのではないか。一般の図書でも、非常に値段の高い本や稀覯本と思われる本でも貸し出している。兵庫県内について書かれた本は、文庫本も新書版も貸出禁止である状況を改善していただきたい。

(事務局)

- ・確認してまた回答する。

(市長)

- ・貸出しにくい事情があるのかもしれないが、市民を信頼して一般の貸出とは違う形で、一定

程度申請して許可する方法などを含め、所管の方とすり合わせをして前向きに対応したい。

- ・図書館の数が中核市規模の場合平均 5.4 館ぐらいである。明石はエリアが狭いが、まだ2館しかないので、一定の公共施設整備のタイミングなどに合わせて、公共施設の一角に本の貸出と返却ができる空間を位置付けるなど、地理的利便性を確保していきたい。特に子どもたちは、遠いと簡単に行けないので、できるだけ拠点整備をしていきたい。
- ・兵庫県の県立図書館には問題意識を持っている。隣の岡山県は、貸出冊数が10年ぐらい続けてナンバーワンで、大阪も2つの府立図書館があるが、その1つだけでも全国最多の蔵書数を誇っている。兵庫県立図書館にももう少し充実化をお願いしたいと思っている。

(教育委員)

- ・前の図書館も環境が良い公園にあり好きだった。今は、明石駅前図書館の学習室が人気が高く抽選で、冷房の中で勉強したい方が勉強できるところになっているのかなと思った。公園図書館で学習室開放のようなことを今後していただきたい。

(教育委員)

- ・ユニバーサルサービスについて、今回初めて詳しく内容を知ったが、大変良い取組だと思っている。障害者手帳を持つ方の割合からすると、登録人数は年々増えているが、まだまだ少ない感じがしている。障害者手帳発行時には、チラシを渡すなどご案内しているのか。

(市長)

- ・確認してまたお答えする。

(教育委員)

- ・良い取組なので、全ての障害者の方に一律にこうした取組を知っていただけるように、手帳発行時に合わせてチラシをお渡ししても良いのではないかなと思った。

(市長)

- ・良い制度でも知られていないと使われないので、しっかりと広報啓発に努めていきたい。

(教育委員)

- ・保育士が絵本の読み聞かせの資格を取るという学習は大切なことだと思う。昔から教育の入り口で絵本は非常に大事な要素で、各家庭の中でお母さんが読んでいたと思う。保育の場は、子どもを預かるだけではなくて、最初の教育と考えると、本に接する機会は子どもにとっては絵本になる。大人が見ても本当に感動的な絵本は、文字と絵が非常に感動的である。
- ・本を読む習慣をつくるきっかけには、保育所や幼稚園での絵本が大切であり、実際に一緒に読んでいくことが大切である。また、子どもの反応を見ることによって、保育や幼児教育をする人も教えられる部分があるので、是非とも積極的に進めていただきたい。

(市長)

- ・明石市は、4カ月健診の時にブックスタートで、健診に合わせて読み聞かせと、子どもに本をプレゼントしていて、3才6カ月健診でも、ブックセカンドで子どもたちに本を選んでいただいて、お持ち帰りいただいて大変好評である。子どもたちが絵本に接する機会でも、あかし案内所の授乳室にも絵本を置くなど工夫している。
- ・今後、「まちじゅう図書館」というコンセプトで色々な所で本棚を市から提供して、置く本も市と連携して進めていきたいと考えている。特に医療機関などとも相談しながら、待合室に本棚を置いて明石の本を少し並べ、絵本というのも良いかと考えている。またご相談したい。

エ 学校教育におけるICT化の推進について

- ・資料6に基づき、学校教育におけるICT化の推進について情報化推進担当課長から説明。

(教育長)

- ・子ども一人につき1台のタブレット端末が配備され、保護者の方からは家に持ち帰りできないのかとよく言われるが、タブレットを利用することが目的ではない。
- ・何をするためにタブレットを活用するのが非常に大事であるので、しっかりと見通しを持って、保護者にも説明していく必要がある。目的がいい加減になると、単に持ち帰って、関係ないことに使うことも想定されるので、説明できるようにしていきたい。

(教育委員)

- ・持ち帰りについて、コロナで陽性になって自宅待機になった子どもが、借りたタブレットで先生から非常に丁寧な指導を受けていて非常に助かって感謝しているという声を聞いている。

(教育委員)

- ・オンラインやタブレットは、登校できない児童・生徒が同じ場にいることができるツールとして非常に役に立つものだと思うので、自宅での活用の幅も広げていただけるといい。
- ・私の子どもの話を聞いても、若い先生方が本当に積極的にタブレットを活用して、うまく授業に取り入れている様子を聞いている。授業がより高い効果を期待できる部分で活用できるように、事例について先生も学べる機会を充実していただけると良い。

(市長)

- ・今のところは次年度から、目的を明確化したうえで、状況を整えたなかで持ち帰りも検討中ということで良いか。

(教育長)

- ・来年度予算で、いわゆる有害サイトにアクセスできないようにするフィルタリングソフトを組み込むことを準備している。
- ・フィルタリングソフトで100%防げるわけではなく、必ずどこか抜け道があり、大人よりも

子どもの方が見つけるのが早いので、家庭にも、特に子どもたち自身にもしっかり理解してもらえるように、情報教育も併せてしていく必要があると考えている。

(市長)

- ・ある私立学校などは全てのパソコンを一元管理して、子どもが何を見たか、どういったメールを送ったか全て管理する体制をとっていったら、子どもからすると全部学校に知られてしまうので、わいせつ動画視聴やいじめも予防できると思う。
- ・結局はお金をかけて、いわゆる有害サイトを見ないように工夫するが、子どもはまた知恵を働かせてアクセスしかねないというリスクなども検討中ということか。

(教育委員会事務局)

- ・明石市ではメールの利用はしていないので、メールを使って何かすることは無い。
- ・アクセスの履歴については、どの生徒がどのサイトにアクセスしたか、インターネットの閲覧履歴を取っているもので、何か事が起これば参考にはできるが、積極的に使うことは全く考えていない。

(教育委員)

- ・児童の方で、こうした機器を使って授業が進められることに対して、拒否反応を示すことや、うまく乗ってこないことはないか。
- ・もう一つは、教員の負担が気になる。大学でパワーポイントを使って授業をすると、準備にかなりの負担があったが、同じように日常的に教員負担があるのか教えていただきたい。

(教育委員会事務局)

- ・児童・生徒の反応について拒否反応を示したという事例は聞いてない。恐らく普段は親に使わせてもらえないのか、むしろ喜んでいるという声をよく聞いている。
- ・2点目の教員の負担について、明石市は iPad を使用しているので、一般のパソコンに比べると、入り口のハードルが非常に低く設定されている。その上で、昨年の導入時にしっかり研修をし、今年度も毎月2回から3回程度、2月まで30回程度フォローアップ研修もして、先生方により簡単に使ってもらえるように研修等でフォローしてきた。
- ・今後は更に今年1年で蓄積したものを情報共有しながら、少しでも先生の負担が軽くなるように努めていきたいと考えている。

(教育委員)

- ・ICT というのは、得意な人はとことん得意で、苦手な人はとことんアナログになっている。もちろん年齢的なこともあるが、その人の個性もあると思う。学年や教科によって、出来たことや出来なかったことの事例も多々あると思うので、教員一人ひとりの ICT が使える資質に頼るのではなく、みんなが使えるように普遍化することを特にお願いしたい。
- ・若い先生の柔軟な発想で「目から鱗」のようなものもあると思うので、強制するのではなく

上手に取り入れて、事例紹介もしながら、ICT 教育を進めていくことに向けて、色々と先生方が選択できるようなものを作っていただきたい。

(市長)

- ・ 試行錯誤中で過渡期だと思っている。市長の意見箱でも、早く持ち帰らせてほしいとか、オンライン授業をもっと積極的にという期待感の強い意見も多い。
- ・ 他方で現場としては、実際に何に使うのか明確でない状況では、いじめにつながることや、わいせつ動画を見続けるようなことがあり、ある私立学校では停学処分も続出しているとも聞いている。
- ・ 実際の現場でどう使われるかも意識しながら、責任のある形で ICT 化の推進をしたいと思っている。学校現場で試行錯誤中なので、モデル校的なものや、実験的なことをして、しっかり確認しながら普及に努めていくという意識である。
- ・ 必要な予算の措置をするので、運用面は子どもの立場にとって、何が良いのか、何のために要るのか、どう使うのかをしっかりと意識しながら、丁寧に進めていただきたい。大事なテーマなので、また引き続き検討していきたい。

(3) その他

(市長)

- ・ 今日議論したいテーマや、次回以降に位置付けたいものなどあればお願いしたい。

(教育委員)

- ・ 保育は厚労省管轄で、文科省管轄の幼稚園の教育とは分けたが、それではだめだということで内閣府のこども園ができた。
- ・ 人間の最初の段階は、多様性もあって色々大事な時だと思う。その中でインクルーシブというのは、自然に身に付くと思う。少しハンディキャップのあるお友達がいたら、それを見て当たり前として、保育の場で育っていくことになってくる。保育の中で、インクルーシブを肌感覚で理解していくことが非常に大切だと思う。
- ・ 一方、それを管理、指導していく保育の先生は大変だと思うので、しっかり保育の先生をバックアップしながら、この部分は大事だという認識を社会全般が持つていく必要がある。

(教育委員)

- ・ 学校の図書室をまちに開いていくという視点もあっても良い。明石は面積が狭い地域で図書室という場所もあり、安全面など色々な配慮があるとは思いますが、淡路島では、放課後の図書室を NPO が学習支援の場として活用していて、貸出も担っているという事例もある。
- ・ 図書室など学校の資源を、どうすればまちのみなさんの公共のものになっていくかという観点でも考えるのも良いのではないかと考えている。

(教育委員)

- 教育大綱のパブリックコメントに一つだけ意見が寄せられた。パブリックコメントの目的は、予め案を公表して、広く人々から意見や情報を得ることだと思っている。寄せられた意見が少ないことは、反対意見がないと考えていいのだろうかと思う。
- 教育大綱は、その方面に詳しい限られた人数で作られていて、出来上がった段階で皆さんの意見を寄せてもらう。大勢の目で見れば気づくことがあり、それが集まって次の参考になる。
- 例えば、パブリックコメントをする段階で一般教員に見せて意見を聞く方法もあると思う。校長や管理職には意見を聞いたと思うが、もっと方法があるのではないかと感じた。教育以外の色々な分野では、多くの意見があるのかもしれないが、一つは余りにも少ないと思った。
- 寄せられた意見は、SDGsについてまだ時期が早いという内容で非常に重要だと思う。教育大綱は、SDGsの詳しい説明が省略されていて、理解していることを前提に出来上がっているように感じた。
- 内容に異議はないが、表現の仕方をもう少し工夫すれば、このような意見は出なかったのではないか。新聞でも「持続可能な開発目標」という訳語で書かれているが、言葉だけで本当に中身は理解できない。「持続可能」とは、目標が「持続可能」なのではなくて、「一人ひとりが持続できる、私たちが今いるこの地球を持続できる」という意味であるのは確かである。説明がされていないから、このような意見が出たのではないか。
- 内容については、意見をだされた方も賛成だろうし、表現のことを問題にされていると思った。パブリックコメントには、意見が多くあった方が考える素材を与えてもらえると思う。

(教育委員)

- 本のまち明石の取組に関連して、幼児教育の重要性については、本当に子どもの0才の時の脳の発達が速くて、大人と同じ程度まで発達することが科学的にも立証されている。
- 全国保育士会の研究大会を明石が担当で、自園が発表する明石の取組を全国に広げたいと思う。発表に向けて、園の蔵書の多様さや、自分の好きな絵本についての話、園内の保育士のビブリオバトルなど11月の発表に向けて準備しているところである。
- 手を伸ばしたところに本があることが、色々な多様性のある子どもや市民にとって本当に大事なことである。今後の学習能力の伸びも期待が出来るので、ブックファースト、ブックセカンドに加えて自園でも無償で3才以上の園児には、月に1冊渡すようにしているが、そうした取組を持続的にしていただきたい。

(市長)

- また継続してこうした場をもちながら、一緒に進めていきたい。教育は大変重要なので、現場で子どもに寄り添って対応し、必要な予算はやり繰りしてしっかり応援していきたい。
- 誰一人全て取り残すことなく全ての子どもたちに、しっかり目配り、気配りをするようなまちにしていきたい。

(事務局)

- ・ 今日いただいたご質問で、お答えできなかったご質問にはまた回答する。本日、総合教育会議は今年度最後の会議となる。次回の開催時期が決まればお知らせする。

4 閉会